

## 子どものこころ診療部

## 1. 領域構成教職員・在職期間

部長・教授(兼任)	友田 明美	平成23年10月
教授(兼任)	松崎 秀夫	平成24年11月
教授(兼任)	小坂 浩隆	平成26年12月
准教授・副部長(兼務)	森本 武志	平成29年10月
准教授(兼務)	鈴木 太	平成29年9月
講師(兼任)	川谷 正男	平成23年10月
特命助教	滝口 慎一郎	平成26年4月
特命助教(兼務)	牧野 拓也	平成29年9月
特命助教	水野 賀史	平成27年4月—令和元年6月
医員	小坂 拓也	平成28年11月

## 2. 研究概要

## 研究概要

平成23年10月に開設した「子どものこころ診療部」は、子どものこころの問題の診断・治療を専門とする、全国でも数少ない診療部門である。小児科、神経科精神科と連携し、経験豊富な心理スタッフと共に、神経発達障害や子どものこころの問題の診療にあたっている。さらに平成29年からは、児童青年期こころの専門医育成部門のスタッフがメンバーに加わり、研究・臨床に加え、教育体制も整備された。子どものこころの発達研究センターとも連携し、神経発達障害や子どものこころの問題の病態解明を目的とした画像研究や、新しい薬の効果を調べる臨床研究に取り組んでいる。

1. 反応性愛着障害へのオキシトシン点鼻効果に関する脳画像研究 (Takiguchi et al., データ解析中)

本研究は、虐待やネグレクトを含む不適切な養育 (マルチトリートメント) を受けた反応性愛着障害の子どもの対象に、オキシトシン点鼻単回投与の脳機能に関する効果を金銭報酬課題施行時の機能的MRIを用いて検討している。本研究から得られる成果は、反応性愛着障害の病態解明および病態特徴に基づく治療薬開発を目指した臨床応用への発展に貢献する。

2. ADHD児におけるCOMT遺伝子多型と大脳皮質-小脳の実行機能ネットワークの関連 (Mizuno et al., Sci Rep. 2017)

注意欠如多動症 (ADHD) は、発達段階に不釣り合いな不注意、多動性-衝動性の症状で特徴づけられ、実行機能障害を主な要因とする神経発達障害である。本研究は、ADHD児では実行機能に關与する大脳皮質-小脳の神経ネットワークが異常を示し、その神経ネットワークはCOMT遺伝子多型の影響を受けることを示した。本研究は、ADHDの病態の多様性の理解および診断・治療方法の改善に寄与しうると考えられる。

3. Tipepidineの臨床試験 (Tomoda & Takiguchi et al., Psychiatry Clin Neurosci. 2015)

Tipepidineは鎮咳薬として古くから小児に広く使用されており、安全性の高い薬剤である。本研究では、ADHD患者を対象にTipepidineを投与し、ADHD症状や認知機能が改善することを示した。TipepidineがADHDに有効である可能性と、その高い安全性から継続投与の可能性を示唆した。

## キーワード

子どものこころ, 発達障害, 愛着障害, マルトリートメント, 養育者支援

## 業績年の進捗状況

## 特色等

発達障害や愛着障害の分子生物・神経基盤を解明し、それらの疾患の早期診断と療育支援の足掛かりを目指す研究を遂行中である。

## 本学の理念との関係

MR I等の生体画像技術を基盤とする画像解析法、生体機能解析法等の開発、及びそれらを用いた生命現象の解明並びに臨床医学への応用に関する世界的に優れた研究を行い、本学の理念の具現化にあたる。

## 3. 研究実績

区分	編数		インパクトファクター (うち原著のみ)	
	2019年分		2019年分	
和文原著論文	0		—	
英文論文	ファーストオーサー	1	5.182 (5.182)	
	コレスポンディングオーサー	2	12.342 (12.342)	
	その他	0	0 (0)	
	合計	2	12.342 (12.342)	

## (A) 著書・論文等

## (1) 英文：著書等

## a. 著書

## b. 著書 (分担執筆)

## c. 編集・編集・監修

## (2) 英文：論文等

## a. 原著論文 (審査有)

19100001

Mizuno Y, Kagitani-Kuriko Shimono, Jung M, Makita K, Takiguchi S, Fujisawa TX, Tachibana M, Nakanishi M, Mohri I, Taniike M, Tomoda A.: Structural Brain Abnormalities in Children and Adolescents with Comorbid Autism Spectrum Disorder and Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder., Translational Psychiatry, 9, 332, 20191209, DOI: 10.1038/s41398-019-0679-z, #5.182

19100002

Fujisawa TX, Nishitani S, Takiguchi S, Shimada K, Smith AK, Tomoda A: Oxytocin receptor DNA methylation and alterations of brain volumes in maltreated children., Neuropsychopharmacology, 44(12), 2045-2053, 201911, DOI: 10.1038/s41386-019-0414-8., #7.182

## b. 原著論文 (審査無)

## c. 原著論文 (総説)

## d. その他研究等実績 (報告書を含む)

## e. 国際会議論文

19100003

Kosaka T, Hiratani M, Ohta G, Kometani H, Takiguchi S, Kawatani M, Ohshima Y: Effectiveness of ramelteon for sleep disorder in preschooler with developmental disorders, 15th Asian Oceanian Congress of Child Neurology, 20190919

## (3) 和文：著書等

## a. 著書

## b. 著書 (分担執筆)

19100004

滝口慎一郎: 被虐待児症候群: 福井 次矢, 高木 誠, 小室 一成: 今日の治療指針 2020年版 私はこう治療している, 医学書院, 20200110

## c. 編集・編集・監修

## (4) 和文：論文等

## a. 原著論文 (審査有)

## b. 原著論文 (審査無)

## 業績一覧

- c. 総説**  
**19100005** 藤澤 隆史、島田 浩二、滝口 慎一郎、友田 明美：児童期逆境体験（ACE）が脳発達におよぼす影響と養育者支援への展望，精神神経学雑誌，122(2)，135-143，20200301
- 19100006** 椎野智子、滝口慎一郎、友田明美：発達障害の脳科学，医療情報誌Animus，(102)，17-21，20200101
- d. その他研究等実績（報告書を含む）**  
**e. 国際会議論文**
- (B) 学会発表等**  
**(1) 国際学会**  
**a. 招待・特別講演等**  
**b. シンポジスト・パネリスト等**  
**c. 一般講演（口演）**  
**d. 一般講演（ポスター）**  
**19100007** Kosaka T, Hiratani M, Ohta G, Kometani H, Takiguchi S, Kawatani M, Ohshima Y: Effectiveness of ramelteon for sleep disorder in preschooler with developmental disorders, 15th Asian Oceanian Congress of Child Neurology, Kuala Lumpur(マレーシア), 20190919
- e. 一般講演**  
**f. その他**
- (2) 国内学会（全国レベル）**  
**a. 招待・特別講演等**  
**b. シンポジスト・パネリスト等**  
**19100008** 滝口慎一郎、水島栄、齋藤大輔：臨床と研究の融合—脳科学的視点から子どもの発達を考える。第25回日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）学術集会 ひょうご大会，神戸市，20191221
- c. 一般講演（口演）**  
**19100009** 藤岡徹、水野賀史、滝口慎一郎、藤澤隆史、松崎秀夫、友田明美、小坂浩隆：自閉スペクトラム症児の社会的情報への注目に不安/抑うつが与える影響について，第60回日本児童青年精神医学会総会，宜野湾市，20191205
- 19100010** 成瀬廣亮、久保田雅史、松尾英明、嶋田誠一郎、松峯昭彦、滝口慎一郎、藤澤隆史、友田明美：注意欠如多動症における日常生活での運動の困難さは自閉症スペクトラム指数と関連する，第6回日本小児理学療法学会学術大会，福岡市，20191116
- 19100011** Mizuno Y, Jung M, Fujisawa TX, Takiguchi S, Kosaka H, Tomoda A: Structural classification feature in children with ADHD using machine learning approach, 第61回日本小児神経学会学術集会，名古屋市，20190531
- 19100012** 平谷美智夫、巨田元礼、小坂拓也、川谷正男、滝口慎一郎、大嶋勇成：“（ディスレクシアの早期発見に関する研究）幼児期より療育を受け、就学後に発達性ディスレクシアと診断された児童の臨床的特徴”，第122回日本小児科学会学術集会，金沢市，20190421
- 19100013** 巨田元礼、平谷美智夫、小坂拓也、川谷正男、滝口慎一郎、大嶋勇成：年長時に読字リスクの早期アセスメントを実施した児の小学1年生での読字能力の調査，第122回日本小児科学会学術集会，金沢市，20190421
- 19100014** 小坂拓也、平谷美智夫、巨田元礼、米谷博、滝口慎一郎、川谷正男、大嶋勇成：発達障害児の睡眠障害に対する年齢と睡眠型によるラメルテオンの有効性の検討，第122回日本小児科学会学術集会，金沢市，20190419
- d. 一般講演（ポスター）**  
**19100015** 藤澤 隆史、鈴木 静香、榎原 信子、藤岡 徹、滝口 慎一郎、友田 明美：不適切養育が社会的注意とオキシトシン濃度に及ぼす影響，日本発達心理学会第31回大会，京都市，20200302
- 19100016** 石谷禎孝、平谷美智夫、榎智史、為国順治、巨田元礼、川谷正男、小坂拓也、滝口慎一郎、藤澤隆史、松浦直己：読字障害（Developmental Dyslexia: DD）の疫学研究：幼児期から成人までの縦断的研究3～中学生時代における学習成績とメンタルヘルスの問題～，第122回日本小児精神神経学会，福井市，20191103
- 19100017** 巨田元礼、平谷美智夫、榎智史、為国順治、川谷正男、小坂拓也、滝口慎一郎、藤澤隆史、石谷禎孝、松浦直己：読字障害（Developmental Dyslexia: DD）の疫学研究：幼児期から成人までの縦断的研究2～幼児期から療育を受けた児童におけるDDの早期発見に関する研究～，第122回日本小児精神神経学会，福井市，20191103
- 19100018** 平谷美智夫、榎智史、為国順治、巨田元礼、川谷正男、小坂拓也、滝口慎一郎、藤澤隆史、石谷禎孝、松浦直己：読字障害（Developmental Dyslexia: DD）の疫学研究：幼児期から成人までの縦断的研究1～クリニックでDDと診断された児童308例の背景因子～，第122回日本小児精神神経学会，福井市，20191103
- 19100019** 小坂拓也、巨田元礼、滝口慎一郎、川谷正男、友田明美：アクチグラフによる幼児期の自閉スペクトラム症児と定型発達児の睡眠動態の比較，第122回日本小児精神神経学会，福井市，20191103
- 19100020** 小坂拓也、平谷美智夫、巨田元礼、米谷博、滝口慎一郎、川谷正男、大嶋勇成：幼児期の発達障害児に対するラメルテオンの目標内服時刻と内服による入眠時刻の改善度の検討，第61回日本小児神経学会学術集会，名古屋市，20190601
- 19100021** 滝口慎一郎、牧田快、藤澤隆史、島田浩二、友田明美：反応性愛着障害児における脳白質線維構造解析，第122回日本小児精神神経学会大会，福井市，20191103
- e. 一般講演**  
**f. その他**
- (3) 国内学会（地方レベル）**  
**a. 招待・特別講演等**  
**b. シンポジスト・パネリスト等**  
**c. 一般講演（口演）**  
**d. 一般講演（ポスター）**  
**e. 一般講演**  
**f. その他**

## (4) その他の研究会・集会

- a. 招待・特別講演等
- b. シンポジスト・パネリスト等
- c. 一般講演（口演）
- d. 一般講演（ポスター）
- e. 一般講演
- f. その他

## (C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者
----	-----------	----------

## (D) その他業績

## 4. グラント取得

## (A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	期間（年度）	金額（配分額）
国立研究開発法人 科学技術振興機構	戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）	養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステム構築	友田 明美	藤澤 隆史, 島田 浩二, 滝口 慎一郎	2019	15600000

区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	期間（年度）	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	愛着関連障害と発達障害の判別システム：中間表現型を用いた研究	滝口 慎一郎		2019	1170000

## (B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	0

## 5. その他の研究関連活動

## (A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地
----	---------	-----	-----	-----

## (B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本小児科学会	一般会員	滝口 慎一郎
日本小児神経学会	一般会員	滝口 慎一郎
日本児童青年精神医学会	一般会員	滝口 慎一郎
日本小児精神神経学会	一般会員	滝口 慎一郎
日本小児心身医学会	一般会員	滝口 慎一郎
日本子ども虐待防止学会	一般会員	滝口 慎一郎
日本子ども虐待医学会	一般会員	滝口 慎一郎
国際小児神経学会	一般会員	滝口 慎一郎
福井子どものこころの臨床研究会	評議員	滝口 慎一郎
日本ADHD学会	一般会員	水野 賀史
日本小児科学会	一般会員	水野 賀史
日本小児神経学会	一般会員	水野 賀史
日本神経科学学会	一般会員	水野 賀史
日本小児精神神経学会	一般会員	水野 賀史
日本小児心身医学会	代議員	水野 賀史

## (C) 座長

国内学会	学会名	氏名
------	-----	----

## (D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	委員長（主査）・委員	氏名
----------	------------	----

## (E) その他

19100022

藤澤隆史, 西谷正太, 滝口慎一郎, 島田浩二, アリーシャ・スミス, 友田明美: 2019年度（前期）医学部\_教員・学生による優秀論文賞（福井大学）, Oxytocin receptor DNA methylation and alterations of brain volumes in maltreated children., 2019